

# 志の種を植える

県教育庁教育次長

内 田 広 之



最近のNHK大河ドラマの影響で、幕末維新期の志士の生き方への関心が高まっている。人気の若手俳優・伊勢谷友介氏演じる吉田松陰が、「至誠にして動かざるものは未だ之れ有らざるなり」と、松下村塾で門下生たちに説き、信念を貫く行動力を示す姿は、現代の若者にも感動を与えただろう。

松下村塾での教育は、実質一年半から二年間程度の短いものだったそうだが、小さな村から短期間にあれほど多く英傑が輩出されたのはなぜか？ この問いに対して、作家の童門冬二氏は、志士たちの「人間的能力の相乗効果」の力を挙げる。つまり、高杉晋作が「百」、久坂玄瑞が「百」の力だとしたら、ふたりで「百+百=二百」の力（＝能力の和）でなく、「百×百=一万」の力（＝人間の掛け算）となり、さらに何十人もが集まると、その数値が強大なパワーを生み出した、ということだそう。志の生み出す力の大きさを実感する。

現代も、幕末維新期と同様、困難課題山積の時代だ。学校教育の様々な場面においても、子どもたちに志の種を植え、諸課題に立ち向かう人間を

育てることが期待されていると言えよう。

縁あって四月から本県に赴任しているが、本県に数々ある文化芸術資源、歴史資源、人的資源に魅力を感じる。例えば、吉備国や美作国の歴史物語、吉備津神社や閑谷学校の国宝建造物、研ぎ澄まされた刀剣類、雄大な自然と一体化した戦国の山城、美しい美観地区や瀬戸内海の自然、銀座のパラーよりも濃厚で贅沢なフルーツ・パフェ等々…。さらに、大都会の人々が忘れてきている人の心の温かみや、やさしさも実感する。

本県の持つこうした資源を全国発信し、人の流入を促して地域を活性化させたり、新たなビジネスチャンスを生みだしたりするなど、少子高齢化人口減少、地域間経済格差等の諸課題の解決に繋がるような、若者の志ある行動力が今後期待されている。既に、県内にも例はあり、例えば、西粟倉村の「森の学校」で林業を蘇らせる若者の取組は、全国からも注目が集まる本場に倅いものだ。

ポテンシャルを眠らせたままではいけない！  
まずは率先垂範。教育に従事する我々自身が、常に初心を忘れず、高い志を求め続けたい。